

金堀鉦山と入角鉦山

はじめに

多可郡多可町北部は、生野鉦床帯の南端であり かつては多くの鉦山が稼行していた。戦国時代から江戸時代にかけての期間を通じて、銅を中心として産出されていた鉦山で後の「住友金属」である『泉屋』の鉦山跡が残されている。しかし 長い歳月を経ており鉦山の諸施設は、崩落が激しく見る影も定かでないが、ここで働かれた軌跡は看ることが出来ると考えて 現地見学をする。

資料として妙見山麓遺跡調査会『兵庫鉦業史の研究 1』を参考にさせて頂いた。

現状について

今回見学するのは「金堀鉦山跡」で、作業人の小屋跡や食堂跡などである。金堀鉦山の鉦口はみる事ができるが、坑道は崩落など危険があるので入ることができない。特に「入角鉦山」は埋め立てられて「キャンプ場」となっていたが、6月末で閉鎖された。牧野大池の上流部の林間を500m位進むと鉦山跡に至り、地藏など供養場所もあり、鉦山の盛んな時期には 多くの人々が働いていた事が偲ばれる場所があちこちに存在する。また 坑道から排出された「鉦山ズリ」が うずたかく堆積しているので、歩行には注意が必要である。よく見ると「茶碗や陶器」の破片も散見することがある。

金堀鉦山

この鉦山の鉦床は「黄銅鉦」が主体で、元禄15年(1702)から稼行されており、宝永5年(1708)から『泉屋』が関わるようになった。

以後 いろいろと変遷しながら 江戸時代の終わりまで続けられた。

この鉦山は、粗銅生産までを行い、大阪の「大阪精銅所」へ運ばれた。

当時、金は「こがね・黄金」

銀は「しろがね」

銅は「あかがね」

鉄は「くろがね」と言われていた。

ここの銅には、銀が含まれており「銀絞り」といわれる「南蛮吹き」により銀を採っていた。

この手法を確立した「泉屋」は、財をなすことができた。

石垣山遺跡の展示館

余暇村公園の一角に「石垣山遺跡」の展示があり、焼竈や素吹き遺跡が展示されており

今回、見学致します。

鉦石は、硫化物として埋蔵しており、焼くことにより酸化物となる。

それを炭により還元して金属として取り出す。